

大阪大学マルチリンガル・エキスパート養成プログラムの現在 ——Academic English Support Deskによる英語発信力強化の試み



海外論文発表
技術

後藤 篤*

Osaka University Multilingual Expert Program:
Academic English Support Desk

Key Words : Multilingual Expert Program, English Presentation

MLEの取り組み

大阪大学マルチリンガル・エキスパート養成プログラム(MLE)は、多言語に精通し、かつ現代世界の喫緊の課題に取り組む専門的な知識を兼ね備えたグローバルな人材の養成を目的に、学部と大学院博士前期課程(修士課程を含む)を通じた部局横断型のプログラムとして構想された。同プログラムは現在、文系各学部(文学部・人間科学部・法学部・経済学部)および研究科(文学研究科・人間科学研究科・法学研究科・国際公共政策研究科・経済学研究科)、そして外国語学部・言語文化研究科(言語社会専攻)を中心に進められている。

MLEを構成するのは、①「文系副専攻プログラム」と②「中国語副専攻プログラム」、③「24言語全学プログラム」、そして④「Academic English Support Deskプログラム」といった4種類の教育プログラムである。他に先駆けて2015年4月に始動した①では、選抜された32名の外国語学部生が「人文学(グローバル・アジア・スタディーズ)」と「人間科学(共生の生態)」、「法学・政治学」、「経済学・経営学」と名付けられた文系4部局から提供されるプログラムを履修している。これを皮切りに、MLEでは2016年度にさらなるプログラムの充実を図るべく、目下準備を進めているところである。まず、①においては文学部の提供プログラムに「人文学(グロ

ーバル・ユーロ・スタディーズ)」を追加することを検討しており、②においては、文系各学部の学生を主対象とする専攻語科目(外国語学部の実習科目に相当)の開講を目指している。世界の24の言語を扱う③では、いくつかの言語で新たな語学教育科目(中級クラス)を開設し、全学の学生がいずれは各言語を上級レベルまで履修できる体制を整備することを構想している。

上記④の「Academic English Support Deskプログラム」は、国際学会での発表を予定する全学の学部生と大学院生、研究員、および教職員を対象として、ネイティブ講師による個人指導を通じて英語プレゼンテーション・スキルの強化を図る取り組みである。本稿では、受講者の声や受講方法の詳細を交えつつ、本年度のAcademic English Support Desk(以下Support Desk)の実施状況を紹介したい。

Academic English Support Desk (箕面トライアル)

Support Deskの初の試みとして、昨年2015年8月の3日～7日、17日～21日、24日～28日に、箕面キャンパスA棟523号室に設置された箕面Support Deskにて英語プレゼンテーションの個人指導トライアルが実施された。各日の受講時間帯は、13時～13時50分と14時～14時50分、15時～15時50分、16時～16時50分の4コマで、受講者には発表素材となるPowerPointファイルの事前送付が求められた。これは、講師が予め各受講者の発表内容を熟知した上で、そのレベルに応じた指導の準備に取り掛かるための配慮である。

MLEのホームページに限らず、学内のポスター掲示やチラシの配布、KOANやO+PUS(全学ディスプレイシステム)等での告知を試みたところ、受講開始直前にはほぼ全ての時間帯が事前予約で埋ま



* Atsushi GOTO

1985年8月生
大阪大学大学院言語文化研究科
博士後期課程単位取得退学(2013年)
現在、大阪大学 言語文化研究科
特任助教 言語文化学修士 英語圏文学
TEL: 072-730-5413
FAX: 072-730-5413
E-mail: gotoa@lang.osaka-u.ac.jp



ネイティブ講師と一対一で、発表構成やPowerPointのデザインを検討

るほどの賑わいが見られた。最終的に同トライアルに参加した受講者数は18名で、これには国際学会での研究発表を目前に控えた大学院生や教員だけでなく、本学の言語文化研究科（外国語学部）と接合科学研究所が共同で進めるカップリング・インターンシップ（CIS）に参加する学生も含まれている。外国語学部および言語文化研究科に所属する学生と教員に加え、医学系研究科と工学研究科、理学研究科、国際公共政策研究科、もしくは文学部といった吹田あるいは豊中キャンパスの部局に所属する学生の参加があったことから、英語プレゼンテーション指導に対する全学的な関心の高さが窺い知れる結果となった。

箕面トライアル受講後に行ったアンケートに対しては、「英語プレゼンテーションの基礎を再確認できた」、「ネイティブ講師との一対一の個人指導は貴重な機会であった」との感想や、同様の個人指導の再受講を望む声が数多く寄せられた。そうした箕面トライアルの好評を受けて2015年10月より実施される運びとなったのが、吹田キャンパスと豊中キャンパスにおける新たなトライアルである。

Academic English Support Desk (吹田・豊中トライアル)

吹田・豊中トライアルにおいては、10月1日から2月26日までの実施記期間中、毎週月・火・水曜日は吹田キャンパスで、木・金曜日は豊中キャンパスでSupport Deskを開講している。9月1日から14日まで医学系研究科の学生・教員のみを対象とする先行募集を行ったところ、わずか3日で吹田キャンパスの10月実施分が全て事前予約によって

埋められた。9月15日より全学の学生および教職員を対象とする一般募集に切り替えたのち、医学系研究科とその関連部局に限らず人間科学研究科、薬学研究科、工学研究科、基礎工学研究科、言語文化研究科、国際公共政策研究科、生命機能研究科、箕面図書館に所属する学生と教員、研究員、職員あわせて50名程度の受講申請が9月中旬に届けられた。実施期間中は空きコマを対象として受講者の募集を継続しているため、今後もさらなる受講者数の増加が期待される。

吹田Support Deskは、医学系研究科附属最先端医療イノベーションセンター棟2階のセミナー室B(225号室)に設置された。箕面Support Deskと同じく、こちらにもスクリーンとプロジェクターが設置されており、実際の学会発表のシミュレーションをすることができる。豊中Support Deskには、総合図書館2階のラーニング・コモンズの一角が選ばれた。ブース内にはコンピューターとモニターが常備され、吹田Support Deskと同じく、英語プレゼンテーションに必須とされる語句表現や身振り手振りはもちろんのこと、場合によってはプレゼンテーションの構成や内容、あるいはPowerPointのデザインに関する指導を受けることができる。各Support Deskに共通して、英語プレゼンテーションの基本から応用テクニックにいたるまで、受講者の要望に応じてバラエティに富んだスキルを磨くことが可能である。

箕面トライアルを踏襲して、吹田・豊中トライアルにおいてもまた、1日あたり13時～13時50分と14時～14時50分、15時～15時50分、16時～16時50分の4コマを開講している。基本的には1週



実際の発表の場面を意識しつつ、身振り手振りを交えての反復練習

間に1回の受講を3週間、合計3回の個人指導を受けることが望ましいが、発表予定の国際学会が直近に迫っている場合はこの限りでない。講師のアドバイスを踏まえて発表内容やPowerPoint ファイルを修正しつつ、発音や言い回しに関する反復練習を重ねたのち、自信をもって発表に臨むことができるだろう。

Support Desk の受講申請方法

Support Desk の受講申請にあたり、希望者はまず、専用のウェブサイト上で各自の発表予定に合った受講日時を予約する。吹田キャンパスあるいは豊中キャンパスいずれかを選択し、表示されたカレンダー上の日付をクリックすれば、その日の予約可能な時間帯が示される。そこで時間帯を選べば、受講者情報の入力画面となり、受付が完了した際にはその旨が自動メールによって通知される。この予約受付完了の翌日を期限として、所定の申請書をMLE宛に送付し、担当者からの受領確認をもって申請手続きの完了となる。

箕面トライアルと同様に、吹田・豊中トライアルにおいてもまた、初回受講日の3日前を目途に、発

表素材となるPowerPoint ファイル（情報保護の観点により、必ずパスワードで閲覧制限が掛けられたもの）の提出が求められる。この事前提出資料とあわせて、申請書に設けられた“Presentation Plan”（発表概要）と“Requests”（講師への要望）の各欄に記入された内容をもとに、講師は指導の準備に取り掛かる。なお、より詳細なSupport Desk の受講申請方法については、MLE のホームページ (<http://www.mle.osaka-u.ac.jp/>) 内に掲示された募集要項を参照されたい。

吹田・豊中トライアルの講師は、箕面トライアルに引き続き、国内の大手企業や病院での英語プレゼンテーションの指導経験を持つNeville Greening氏が務められている。その温かな人柄もあいまって、氏の熱意ある指導は本学においても定評を得つつある。Greening氏とともにMLEが送るSupport Deskプログラムは、英語プレゼンテーションの初心者から国際学会での経験豊かなベテラン研究者までの幅広いニーズに応えることにより、大阪大学の英語発信力をさらに飛躍させる絶好の契機となるはずである。

